

新年  
特集号

# 自治労福島

自治労福島県本部機関紙

E-mail:syokichou@jichiro-fukushima.or.jp

第846号  
2024年(令和6年)  
1月10日  
福島市荒町1-21  
自治労福島県本部  
発行人澤村英行

## 家庭版

機関紙は読んだらご家庭へ

# 謹賀新年

WINTERNAUT/SUMMERONIPS SPRINGEARS/AUTUMNUEINIA WINTERNAUT

2024年  
年頭のごあいさつ



自治労福島県本部  
中央執行委員長

澤村 英行

新年あけましておめでとうございます。組合員とご家族の皆様におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、組合員の皆さんと力を合わせ、賃金・労働条件の改善に向け取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて、今年の課題は3点です。

1点目は賃金・労働条件の改善です。昨年は近年にない高水準の賃上げが実現しました。しかし、厚生労働省の「毎月勤労統計調査」(10月速報値)によると、実質賃金は19カ月連続でマイナスとなり、賃上げが物価上昇に追い付かない状況が続いています。一方、職場では、通常業務や大震災・原発事故からの復興・創生業務に加え、度重なる自然災害、コロナ禍への対応等により業務量は増え続け、さらなる長時間労働となっています。その結果、メンタル疾患者や早期退職者が増加、公務職場の志望者減少も相俟って人員不足は極めて深刻な状況です。職員が安心して生活し、心身共に健康で働き続けられる職場環境の整備が必要となっています。あらためて、生活や職場実態、組合員の声を基にした要求・交渉が求められています。諸課題・要求実現に向け、2024春闘、人勤期、確定期の取り組みを強化していきましょう。

2点目は組織強化・拡大です。単組の活動、県本部運動を活性化し、組織強化をはかっていくことが喫緊の課題です。常に身近な存在にあり、相談のり、そして最も改善してほしい課題を取り上げることにより、組合員に信頼され、頼られる存在となることです。組織の強化・拡大につながります。第15次県本部組織強化計画に基づき、各単組が一つステップアップできる取り組みを追求していきましょう。

3点目は政治闘争です。自民党派閥の政治資金パーティー問題は、さらなる政治不信、政治離れを招いています。しかし、私たち公務員労働者の賃金・労働条件は、最終的には議会の場で決定され、仕事もマイナカードで明らかかなように国政に左右されるなど、政治と無関係ではいられません。政治闘争の必要性、政治に求める課題を明確にし、働くことを軸とする安心社会を実現するため、各級選挙における組織内・推薦候補者全員の勝利を勝ち取りましょう。

結びに、自治労・県本部運動へのさらなる結果をお願いするとともに、組合員、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とします。声を力に一步前へ。ともにがんばりましょう。

WINTERNAUT/SUMMERONIPS SPRINGEARS/AUTUMNUEINIA WINTERNAUT

# 2024新春特別対談 岸まきこ氏の素顔に迫る

<p>■略歴</p> <p>1976年 北海道岩見沢市（旧栗沢町）生まれ</p> <p>1994年 北海道岩見沢緑陵高等学校商業科卒業後旧栗沢町役場入職（現岩見沢市）庶務係、議事事務局、振興課企画・合併対策担当</p> <p>2004年 自治労働北海道空知地方本部 女性部長</p> <p>2006年 市町村合併により岩見沢市庶務課統計係</p>	<p>2007年 自治労働北海道空知地方本部 書記次長</p> <p>2008年 同 書記長</p> <p>2010年 同 副執行委員長</p> <p>2011年 岩見沢市企画財政部財政課管財係 書記長</p> <p>自治労働北海道空知地方本部 書記長</p> <p>連合北海道空知地域協議会 副会長</p> <p>2013年 自治労働本部 法対労安局長</p>	<p>2015年 同 組織対策局長</p> <p>2017年 自治労働特別中央執行委員（組織対策担当）</p> <p>2019年 第25回参議院議員選挙で初当選</p> <p>2023年10月現在 参議院総務委員会、決算委員会、地方創生及びデジタル社会の形成等に関する特別委員会（理事）に所属し、国会で奮闘中</p>
---	---	--



岸まきこさん(右)が自治労働福島県本部に来局。澤村中央執行委員長が素顔に迫った。

コロナ禍前の日常の回復を実感する中、2024年が始まった。年々増加する行政需要を背景に慢性的な人員不足に悩まされるなど、公務労働者を取り巻く情勢は依然として厳しいものがある。自治労働福島県本部は昨年10月開催の第113回定期大会で、2025年夏の第27回参議院選挙に向け、組織内予定候補者として「岸まきこ」さんの推薦を決定している。今回は新春特別企画として、自治労働福島県本部に岸まきこさんを招き、澤村英行中央執行委員長がその素顔に迫った。

## 素顔の岸さん

澤村 あけましておめでとうございませう。今回、「自治労働福島」新春特集の特別企画として、岸さんとの対談を企画いたしました。本日はよろしくお願ひします。

岸 あけましておめでとうございませう。こちらこそ、よろしくお願ひします。

澤村 自己紹介ということで、趣味や特技、好きな食べ物などをお聞かせいただけますか。

岸 昔は色々やっていました。このシーズンだとスキーですね、毎週夕張りに行ってました。ウィンタースポーツはスノーボードもやりますが、今は怪我をしないと大変なので、やっていません(笑)。特に政治活動

を行うようになってからは、時間が無くなりました。今は、ユニチュウプを見るんですよ、寝る前とかに。2分くらいで終わるショート動画というのがあって、それをひたすら見ますね。犬とか赤ちゃんの動画。

澤村 癒し系の動画ですね。

岸 そうです、癒し系。それを見て、「かわいいな〜」って笑っています(笑)。好きな食べ物は最近あまり食べないようになっているのですが、ポテトコロッケです。芋とカボチャが好きなんです。あと、わりと太るようなお米とか。

澤村 特技についてもお聞かせください。

岸 特技はいつべんにいろんなことができることですね。私って結構散漫なタイプで「あつちを

やって、こつちをやって」って。だから切り替えも早く。あ、切り替えが早いというのも特技か。さつきまでふざけていたのに、まじめなこともすぐできる(笑)。

澤村 ある意味議員さんに必要な要素ではないですか。

岸 そうですね、落ち込んではいられませんからね(笑)。いいかもしれませんよ、そういう意味では。

澤村 うらやましいですね、私はかなり引きずるタイプなんです(笑)。続いて、岸さんの尊敬する人はどなたになりますか。

岸 今は両親とも亡くなりましたが、やはり父と母はすごい人だったな、と思います。あ、普通の人ですよ(笑)。普通の人ですけど、母は明るくて周りの人を引き寄せるような人でした。父は母みたいな感じではないかと思っています。したが、亡くなってから「父って人に好かれていたんだな」というのが分かってきて、「意外と父も家の中にいる時と、外にいる時とでは違っていたんだな」と。確かにすごく気を遣う人だったので。「この両親から生まれたから今の自分があるんだな」と思っています。

澤村 岸さんは最初、旧栗沢町の町役場でしたね。町職員になろうと思った理由をお聞かせください。

岸 本当は北海道警察が本命でした。警察は不合格で、役場が受かったというのが実際のところなんです。役場がどんな仕事をしているかは分りませんが、実際に入ってみたら「すごく色々なことをしているんだな」と。総務課庶務係だったので、最初は郵便物を配る仕事でした。届いた郵便物を仕分ける仕事なので、ある意味、



熱い思いを伝える岸さん

どの職場でどのような仕事をしているかを知ることができました。それで「役場って実はすごく色々なことをやっているんだな」と。とにかく私は「人の役に立つ仕事がいいな」と思っていたので、「これはいい仕事だな」と思ったんです。それがなかったら、翌年も警察を受けようと思っていました。

澤村 岸さんが警察官の試験で不合格だったことが、自治労働にとってもいい結果だったということですね(笑)。町職員として働く中で、組合活動に関わるようになっていくのですが、きっかけはどんなところでしたか。

澤村 24歳の時に私の単組から空知地方の専従を出すことになって、同期の男性が専従になりました。その専従が単組に「女性部の役員が見つからなくて、『専従のところから出せ』と言われた」と。それで私たちが「専従を出しているのだから協力しなければならぬ」ということになって、当時、私たちの単組は3人しかいなかったのですが、その3人が呼び出されて「誰かを選出しなければならぬ」という話をされ、早く帰ったからだから私が引き受けたんです(笑)。それが、空知地方本部の女性部副部長をやることになったきっかけです。全部初めてなんです。でも、行くたびに新しい情報が入ってきて、どのような活動を行っているか分かるようになってくる。当時、女性部の中に格差がたくさんあって、それで「色々変えなければいけない」と思うようになっていきました。

## 実感した組合の必要性

澤村 職場の中で色々問題を感じていたということですか。

岸 象徴的だったのは近隣の町で共働き職員の夫婦のうち、女性だけが退職を迫られた出来事です。退職を断ったら、事務職から職種転換を行う嫌がらせ人事の内示が出て、初めて自治労働に泣きついてきたんです。私たちが女性部も「それは大問題だ」ということになって、抗議打電をやったり、弁護士に入ってもらったりして、結果として組合の力で白紙撤回させたんです。組合がなければ、恐らくそのまま泣き寝入りでした。

澤村 それはすごい経験でしたね。

岸 町民からの声が寄せられて「二馬力で共働きはおかしい」ということになって。当時職員採用抑制が始まっていたので、自分の子どもを役場に入れたくても、採用がないんですよ。それは「女性職員が辞めないからだ」ということになって。弁護士の先生も交渉に入っているのですが、町長は「法律は関係ない」と。「選挙で選ばれた自分が正しい」と言うんですね。結果的に、組合が動いたことで止めることができた。この経験を通じて、「今は困ってはいなくても、組合は何かあったときにすごく役に立つ」というのと、「自分が困っていないなくても、誰かが困っているときにみんなで応援することを知ることができた」ということを知った。すごい成功体験ですよ。普段からできる範囲で構わないので関わらなくてはならない」と思っていたら、ガラッと変わりましたね、私の中で。きっかけが重なりますが。

## 政治家への道

澤村 そのような経験から組合活動に積極的に関わるようになった岸さんですが、その当時、政治に対しては、関心はあったのですか。また、組織内を含め議員の方々はどういう存在だったのですか。

岸 元々、私の町には組織内議員はいませんでした。最初に政治が大事なことであったのはさつきの町長の話なんです。少なくとも「トップは変な人を置いてはいけないな」というのがきっかけです。その後は、2008年の北海道議会議員選挙に地元の空知という郡部から、初めて自治労働の組織内予定候補を出すことになったんです。そのときに夕張市の財政破綻の問題が起きて、それで「北海道議会できちんと意見を言うていかなければならない」ということになって。当時の北海道知事は国のメンツを立ててしまつて、市側に立ってくれなかったんです。澤村委員長も県職員だからお分りかたと思いますが、本来、知事は市町村や道民に寄り添わなければならぬのに、国に任せてしまったんです。夕張を切り捨てようとした。それで地元の道議をつくっていかなければならぬ」ということで、はじめて組織内候補予定者の政治活動、選挙活動に関わることになりました。

澤村 岸さん自身は2019年の参院選に立候補をされることになりましたが、立候補を決意したのはどんな理由ですか。

岸 川本前委員長と石上現委員長の二人に囲まれてですね、「1時間以内で決める」って。

澤村 本当ですか！

岸 本当ですよ。新旧委員長とは北海道ですと一緒やってきた仲なので、受けるだろうと思っていました。そうやって育てられてきたんです。いつの間にか、よっぽど、家族のことを気にするやら断つたと思うんですけど、幸いにも理解のある家族だったので



聞き手は澤村中央執行委員長

で。母は反対でしたが、父に電話をしたら「お母さんのことはいい。何とかするからやりたいことをやれ」と。電話でのやりとりですけれどね。翌日新聞に出るといふことで、仕方なく電話をしたんですけど(笑)。

**政治活動を振り返り**

澤村 2019年に議員になられて、現在、4年が経過しましたが、この4年間を振り返ってみて感じていることをお聞かせください。

岸 この4年間で総理が3人変わったというんですかね。もつと落ちていて日本全体のことを考えてもらえるようになるというなど思っています。現在の選挙制度はどうしても人気取り政策が中心になっていて「本当の政策議論ができていない」と残念に感じています。「国民生活を考えていない政権だな」と思います。

澤村 ご自分の議員活動を振り返って、「こういうことができたな」とか、「こういうことができていないな」というのはありますか。

岸 結構できるんですか。結構できるんですか！

澤村 率直なことを言うと「務まるのかな」って思ったんですけど、果たして「閣僚や官僚と対等に渡り合えるのだろうか」と心配していたんです。でも、全くその心配はいいりませんでしたね。「なぜか？」っていうと、閣僚は現場を知らないのに政策を決めてしまう。だから、「これを解決しないとみんなが困るんだ」というのを伝えることがすごく大事な役割で、それを伝えることで官僚は改善に動いてくれるんですかね。「どうしたら現場が困らないのか」という情報は、重要にされるのです。

澤村 ある意味自治労の組織内議



員として現場組合員の実態なり、声を聞いてきたことが、重要にされていくことですね。

岸 力になっていきますね。

澤村 話は変わりますが、若い世代の政治への関心の低さが課題になっています。このことについて岸さんはどのように思われますか。

岸 「どうしたらいいのか」っていうくらい危機的な状況です。みんなが新聞を読み解くくら

いの力を、主権者教育で教えていけないと難しいのかもしれない。家の中で政治を話すことができればいいのですが、それが難しいのであれば学校でやるしかないのかな、と思います。

**自治労に対する期待**

澤村 自治労に対して、岸さんが期待するものを教えてください。

岸 自治労に対して期待するのは、社会正義なんです。私の出身は石炭産産業が国の政策で衰退した地域なんです。産産業がなくなるということが、ものすごく自治体に影響したんです。夕張がそうですね。産産業が国の政策によって変えられたから、夕張は12万人も人口がいたのに、破綻の時、1万2千人ですよ。10分の1に人口が減るほど、振り回されてきたんで

す。福島も、国の政策によって振り回されて、ああいう事故がまさか起きるとは思わなかったけど、起きてしまった。起きてしまった後の対応も含めて国が本来もつと責任を持つべきですよ。国策としてのエネルギー政策では、特に。それなのに「たった12年で原発を動かすんですか」っていうことも含めて、やっぱり全然反省していない。結局その地域のことを本当の意味では考えていないのかなって思います。自治労は自分の処遇改善だけでなく、産産業政策も含めて「わが町を元気にするには何が必要か」ということを自由に話し合っていて、いろんな意見を伝えてほしい。私もそれを政策として提言していきたい。そういう意味での社会正義というのが、自治労には必要だと思う

ています。その地域全体を守る立場で取り組んでもらいたいと思っています。

**福島への思い、メッセージ**

澤村 岸さんにはこの間被災自治体にも足を運んで頂いております。国会の中でも被災自治体の課題を取り上げて頂いており、福島の思いをお聞かせください。

岸 福島は、やっぱりすごく別格なんです。重なるって見えてしまうんです。夕張と。国の政策によって振り回されたという意味で。そういう意味で夕張と同じく、国がきちんと責任をもって最後まで考えなければいけない地域だ。なって私の中では思っていますね。

澤村 今年の抱負をお聞かせください。

岸 普段はとて忙ししいと思えますが、自分の暮らしを大切にしたいのと、国の制度で「おかしいな」って思うことがあったら、声を出してほしいなって思っています。自分が「変だな」と思ったら遠慮なく言ってくれば、私が代弁者として伝えます。私が改善を求めていくので、組合員の皆

さんには一緒に政策や制度を変えていくという構えてしまうかもしれないけれど、気軽に取り組んで頂きたいと思っています。

岸 私、年女なんです(笑)。抱負、難しい。もう少し自分の考えていることを分かりやすく伝えられるようになりたいな、と(笑)。間もなく議員になって5年目ということで、いつまでも新人とは思ってられないので、頼りがいのある議員活動をしていきたいと考えています。

澤村 長時間にわたりありがとうございました。福島県本部としても福島に足を運んで頂いて、組合員とも交流をして頂きたいと思っております。その際はよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。



**公共サービスの「誠」のために**



全日本自治団体労働組合 中央執行委員長 石上 千博

組合員のみなさん、明けましておめでとうございます。

さて、公務公共サービス労働者を取り巻く課題は多岐にわたりますが、まずは、賃金・労働条件の改善です。物価上昇が続く中で、公務員も含めた労働者の処遇改善を勝ち取ることが重要であり、春闘を起点に秋の確定闘争まで粘り強く取り組みを進めていくことが必要です。また、コロナ禍で公共サービスの脆弱性・人員不足が浮き彫りとなりました。「誰もが安心して働き生活できる社会」を実現するため、公共サービスの重要性を広く訴えるとともに、非常時対応も踏まえた必要な人員、財源の確保にむけた取り組みの強化が必要です。

さらに、2025年7月の第27回参院選に、「岸まきこ」参議院議員を、自治労組織内候補として再度擁立することを決定しました。公共サービスの現場の最前線で働く労働者の声を政策に反映させるためにも、自治労の代表を国会に送り出していく必要があります。

2024年は辰年、「活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年」と言われています。「声を力に、一歩前へ」をスローガンに、課題の前進にむけて先頭に立って運動にまい進する決意です。組合員の皆さん、ともにがんばりましょう。

**現場を変え、地域を変える**



参議院議員 鬼木まこと

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は、温かく力強いご声援をいただき、本当にありがとうございました。

この間の仲間の皆さんのお力添えに心より感謝申し上げます。

昨年は、初めての通常国会における委員会や調査会での質問の機会は12回。本会議に登壇して質問する機会もいただき、議員1年目の貴重な経験となりました。それぞれの質問に当たっては、関係する評議会や協議会、協力産別の皆さんとの協議や意見交換を行い、「現場の今」「地域の今」を国会に持ち込むことに腐心しました。安心して暮らしていける地域を作るためには、地域を支える公共サービスの現場の充実・強化が必要であることを今後も繰り返し訴え、その実現を図るため努力していきます。

現場を変え、地域を変えるためには、政治を変えなければなりません。そのためにも第27回参議院選挙「岸まきこ」の取り組みを前進させましょう。もう1年半しかありません。すべての仲間の皆さんに、それぞれの場所から最大の結集をいただくことを心よりお願いし、年頭のご挨拶と致します。

ともに頑張りましょう！

**地方自治を守るための行動**



参議院議員 岸 まきこ

明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ5類移行を経て、ようやく地域も労働運動も活気が出てきました。一方で、公立病院や消防現場では大変な状況が続いており、継続的なコロナ対策は必須です。

世界では、ウクライナ侵攻やパレスチナ情勢等、戦争・紛争が絶えません。一日も早い安寧を願うとともに、日本政府としての国際平和に向けた積極的行動を求められています。

私の今年の目標は「地方自治を守るための行動」です。

昨年末、第33次地方制度調査会の答申が出され、感染症等を理由に国が地方への指示を可能とする内容が盛り込まれました。国と地方は「対等・協力」という地方分権の根幹に逆行しかねません。辺野古新基地建設問題にしても、国による代執行の強硬は地方自治への侵害であり、国の公益を理由に地域住民の安全を蔑ろにすることは許されません。

地域住民のためにこそ地方自治体を尊重すべきであることを言い続けなければ、地方の暮らしは脅かされてしまいます。本年も住民・地方を守るためにも国政で自治労の現場の声を届けます。

声を力に、一歩前へ。ともにがんばりましょう。

# 新春お年玉クイズ



A							
	1		3		5		7
					D		
						10	
		C				F	
	11			4			12
							9
			13			6	
	14	2		15	E		8
							17
	16						
		B					
	18						19

■問題  
タテのカギ、ヨコのカギをつないでパズルを完成させてください。AからFまでの6つの枠に入った文字を並びかえると答え(言葉)になります。

## クイズの答え

--	--	--	--	--	--	--	--

抽選で豪華景品が  
当たる!

- 自治労働福島県本部賞  
ギフト券5万円分 2本
- こくみん共済coop全労済自治労働共済賞  
カタログギフト5千円相当 10本
- 東北労金福島県本部賞  
カタログギフト1万円相当 2本
- こくみん共済coop福島推進本部賞  
図書カード5千円 4本
- 自治労働福島県本部お年玉賞  
クオカード千円 30本

### タテのカギ

- 1 すばらしく具合が良いこと
- 2 ⇨昼間
- 3 血縁の人々の総称。血族
- 4 団扇
- 5 ⇨オモテ
- 6 子どもが遊びに用いるガラス玉
- 7 ○○○ライオンズ
- 8 似かようこと。お互いに共通点があること
- 9 始動・先導

### ヨコのカギ

- 1 メインの前に行われる手始めの試合
- 10 ⇨往
- 11 いくつかの部分から全体を成り立たせる組み立て
- 12 鯽
- 13 物事の起こるきっかけ
- 14 ブラウン
- 15 世界
- 16 前もって何となく感じる
- 17 ○○は小を兼ねる
- 18 めぐりあわせ・さだめ
- 19 塩気が薄いこと

◆竜の雲を得たるがごとし⇨風雲を得て竜が天に昇るように、英雄豪傑が世間に頭角を現すよい機会を得たこと。

◆竜のけつまづき⇨どんなに立派な人でも、ときには失敗することもあるということ。

◆竜に巻いて巳(み)にこぼす⇨竜が辰の日に水を巻き上げて、巳の日に雨を降らせる。つまり、辰の日は晴れて巳の日は雨が降るといふこと。

◆登竜門⇨黄河上流の竜門を登り切った鯉(こい)は竜になるとされた故事から、立身出世の関門。また人が栄達することの例え。

◆竜虎相搏つ(りゅうこうあひう)⇨いづれ劣らぬ英雄・豪傑・強豪など、強い者同士が争いあうことの例え。

◆竜頭蛇尾(りゅうとうだび)⇨頭が竜で尾が蛇ということ。つまり初めのうちは勢いが盛んであるが、終わりのほうはふるわず尻すぼみになってしまうことの例え。

◆竜虎相搏つ(りゅうこうあひう)⇨いづれ劣らぬ英雄・豪傑・強豪など、強い者同士が争いあうことの例え。

## 「しあわせ・豊福」

新年会のあつち(に)活用ください

## 応募方法

- ハガキに、①クイズの答え  
②単組名(県職は支部名)  
③職場名  
④氏名  
を明記してご応募ください。  
※住所不要。景品は単組にお渡しします。
- 応募先 〒960-8042 福島市荒町1-21  
自治労働福島県本部
- 締切 2月9日(金) 消印有効



明けまして  
おめでとうございます  
ごいいます

共済

たすけあいの保障 じちろう共済

## 充実の保障をお届けします

総合共済	団体生命共済	じちろう退職者 <sup>団体</sup> 生命共済	長期共済
税制適格年金	じちろうマイカー共済	自賠償共済	住まいる共済
介護保障	じちろう 子ども保障満期金付タイプ	こくみん共済(全労済) 自治労働共済 推進本部	

不明な点があれば、  
まず組合にご連絡ください。

こくみん共済 NEWS  
5122V133

「こくみん共済coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。  
契約にあたってはパンフレットをご覧ください